

リソウからきていると見てよい。トキワイカリソウの葉裏の毛は葉裏に圧着しており、太平洋岸のイカリソウでは、毛は密で直立している。

ウツクシシャジン *Adenophora nikoensis* Fr. et Sav. var. *recurvata* F. Maekawa

信州美ヶ原の北端三才山峠附近の烏帽子岩は奇峯である。ここにヒメシャジンの変わりものがある。今年松田行雄氏と三男の横内文人の両名をわずらわして、これを採集した。この変種は、茎が懸垂性で（栽培してみると地上に茎が平行する）、花冠が反捲し、雌蕊が長く花外に抽出する。なお、興味あることは雄蕊が花中で一回旋することである。花色は紫色か白色である。これも前川博士にお願いして前記の学名を得た。和名は、地名の美ヶ原は世に名高いが、植物にはそれを冠称するものがなかったので、ウツクシシャジンとした。御命名下さった前川博士と採集に御協力下さったお二人に、厚く御礼を申しあげる。

シマガヤ（シマヨシ・チグサ） *Phalaris arundinacea* L. var. *picta* L.

クサヨシの葉に縞の入る美しいもの、園芸品としてもよい、長男横内正之が東筑摩郡坂井村で昨年6月採集したもの、同定を頂いた林弥栄林学博士に御礼を申しあげると共に長男正之の労を多とする。信州植物界の一員に加える。

イワヨモギ *Artemisia iwayomogj* Kitam.

去年までの茎は殆んど木質であるのに、今年の茎は草質で、葉をもんでかぐとヨモギ臭が強い、小葉が殆んど茎迄もつくという点も他の植物と違う。岩淵潭氏が東筑摩郡四賀村横川の小字水上の山中で採集され、昨年9月中旬私宅に持ち来られた。分布が北海道、千島南部、樺太、朝鮮、満州のはずであるので、念の為、前川博士にお送りした。先生は多大のお心を寄せられ、「飛越し型分布」の一例といわれた。本種を採集恵与された岩淵潭氏に感謝の意を表する。

ハイハマボツス（ヤチハコベ） *Samolus parviflorus* Rafin.

上原幸夫氏によって関田山脈の桂池と茶屋池から採集され、同市蓮の丸山利雄氏を経て私の手許に届いた。分布は本州、北海道、北米にある。これも飛越し分布型の一例であろう。前記二氏に厚く御礼を申しあげる。

（追記） ミノチイカリソウおよびウツクシシャジンは、正式にはまだ発表になっていない。

（T. S.）

イヌコリヤナギの枝垂 南安曇郡奈川村追平の山地にイヌコリヤナギの枝垂れがある。幹は根元から3本に分かれ、根元は土をかぶっているが、周囲は1mに近いものとみられた。樹高は1m程で低い、急斜面にあたるため垂れた枝先の1部は根元よりさらに70cmほど下まで下っているみごとな枝垂れである。ふつうのイヌコリヤナギに比べれば、新梢は暗紅色を帯びて極めて細く、年々の生長も大へん短いので、この種としては珍しい老大木である。イヌコリヤナギの枝垂れは、文献に記載がみられないので、新品種シダレイヌコリヤナギ *Salix integra* Thunb. f. *pendula* Okuhara とよび、大切に保存したい。（奥原弘人）